

2021年度 第27回FDフォーラム

大学教育の 場を問い直す

オンライン開催

2022. 2 / 19_土 20_日
26_土 27_日

● 申込期間

大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学の方

1/5 水 10:00 ▶ 2/5 土 17:00

上記以外の方

1/18 火 10:00 ▶ 2/5 土 17:00

大学教育の「場」を問い直す

COVID-19が席卷して2年余りが過ぎました。この間、大学教職員は未知のウイルスと対峙しながら、試行錯誤の中、大学教育に取り組んでこられたことと思います。その中で、教職員や学生たちは気づいたのではないのでしょうか。大学教育の「場」はキャンパスだけではないことに。オンライン授業は、自宅にしながら大学の授業を受けることを可能にしました。感染対策を講じながらのフィールドワークも再開されています。「大学教育＝大学のキャンパスにきて、対面で授業を受ける」という大学のアイデンティティの一つが揺らぎ始めています。

そこで、今年度のFDフォーラムはテーマを「大学教育の『場』を問い直す」としました。大学教育の場は多様化しています。さまざまな場で展開される大学教育の可能性とは。各大学のアイデンティティとは。本フォーラムがポストコロナを見据えた、新たな大学の存在意義を考えるきっかけになれば幸いです。

今年度は、昨年度に引き続き、シンポジウム・分科会・ポスターセッション・情報交換会などプログラムすべてをオンラインで開催します。昨年度の経験を踏まえて、より充実した内容をお届けできるよう準備を進めて参りました。みなさまのご参加をお待ちしています。

第27回FDフォーラム企画検討委員会 委員長 畑田 彩

(京都外国語大学・京都外国語短期大学 准教授)

スケジュール

日程	時間	内容	掲載ページ
2/12(土)	10:00～	ポスターセッション 特設WEBサイト公開(2月28日(月) 23:59まで)	P.9
2/19(土)	9:30～12:00	シンポジウム1 「大学教育の『場』を問い直すーポストコロナに向けて」	P.3
	14:00～	ポスターセッション オンライン発表	P.9
2/20(日)	9:30～	第1分科会	P.4
	14:00～	第2・3・4分科会	P.4～5
2/26(土)	9:30～	第5・6分科会	P.5
	14:00～	第7・8・9分科会	P.6
2/27(日)	9:30～	第10・11・12分科会	P.7
	13:30～16:00	シンポジウム2 「科目・教養・教員の未来～コロナ禍を経たこれからの大学教育を展望する」	P.8
	16:30～18:00	情報交換会	P.9

第27回FDフォーラム企画検討委員会

▶ 委員長 ▶ 副委員長

▶ 畑田 彩 京都外国語大学・京都外国語短期大学 准教授
 ▶ 白鳥 秀卓 京都産業大学 生命科学部 教授／教育支援研究開発センター副センター長
 石川 裕之 京都ノートルダム女子大学 国際言語文化学部 准教授
 浦野 由平 京都文教大学 臨床心理学部 特任講師
 孔 栄鍾 佛教大学 社会福祉学部 講師
 田口 真奈 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授
 谷口 有子 京都先端科学大学 健康医療学部 教授

築地 達郎 龍谷大学 社会学部 准教授
 西野 毅朗 京都橘大学 教育開発・学習支援室 専任講師
 宮永 亮 京都精華大学 芸術学部 講師
 安田 誠人 大谷大学 教育学部 教授
 山口 洋典 立命館大学 共通教育推進機構 教授
 山下 麻衣 同志社大学 商学部 准教授

[参加要件・注意事項等]

第27回FDフォーラムは、2つのシンポジウム・12の分科会をオンラインで実施いたします。
また、ポスターセッション・情報交換会もオンラインでの開催となります。

参加要件について

- 本フォーラムは、全プログラムZoomを使用いたします。Zoomがご使用になれない方は、参加いただけませんので、ご注意ください。
- 情報端末(PC推奨)は、参加者ご自身でご準備いただき、安定したインターネット通信環境より、ご参加ください。
- Zoomアプリケーションのインストールを推奨します。ウェブブラウザからの接続も可能ですが、機能が制限される場合があります。また、既にインストールされている方は、最新のバージョンにアップデートくださいますようお願い申し上げます。
- 参加者の機材・環境等のトラブルは、事務局では対応いたしかねます。
- 参加者の通信環境やアプリケーション等の不具合により、ご視聴いただけない場合は、大学コンソーシアム京都では責任を負いかねます。

参加方法等について

- お申込みいただいた方には、プログラムごとに特設WEBサイトをご案内いたします。
- 当日は、特設WEBサイトよりZoomへご入室ください。
- 事前公開資料も、特設WEBサイトよりダウンロードいただけます。

※各プログラムの事前公開資料は、そのプログラムの申込者にのみ公開いたしますので、他者への転送・共有はお控えください。厳守をお願いいたします。

録画映像のオンデマンド配信について

- シンポジウム・分科会では、当日の内容を録画し、後日、録画映像のオンデマンド配信を予定しております。
- シンポジウム1・シンポジウム2は、シンポジウムへの申込有無にかかわらず、本フォーラムにお申込みいただいた全ての方へ視聴方法をご案内いたします。
- 分科会は、各分科会申込者のみへのご案内となります。分科会のオンデマンド配信は、回線トラブル等により、申込分科会が当日視聴不可となった場合の代替措置として提供いたします。申込みされていない分科会の録画映像は視聴いただけません。

※不測の事態により、録画ができず、後日オンデマンド配信ができない場合があります。

なお、オンデマンド配信ができない場合も参加費の払い戻しはいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

※録画実施時間内で、参加者の方がご発言等された場合、その映像・音声は録画に含まれますので、あらかじめご了承ください。

※参加者ご自身での録画・撮影・録音はご遠慮ください。

交流会について

- 一部のシンポジウム・分科会では、終了後に、Zoomミーティングを使用し、参加者と登壇者が交流する時間を設けます。
- 交流会を実施するプログラムについては、本リーフレットP.3～P.8の各プログラム詳細ページにてご確認ください。
- 交流会への参加は、当該プログラムの申込者に限ります。また、交流会への参加申込は不要です。
- 交流会への参加は任意です。
- 当該プログラムでの録画実施の有無にかかわらず、交流会では、録画は一切いたしません。



大学教育の「場」を問い直すーポストコロナに向けて

新型コロナウイルスの感染拡大によって、社会のICT化が急速に進んでいる。大学教育も同期型・非同期型の遠隔授業や、対面と遠隔を組み合わせたハイブリッド授業などのノウハウを蓄積した。新型コロナウイルス終息後も、これらの授業形態は活用されるだろう。「大学のキャンパスに来て、その道の専門家である教員による対面授業を受ける」という大学教育のアイデンティティの一部が失われ、大学教育の「場」が多様化している今、大学教育の在り方の再考が求められているのではないか。そこで、本シンポジウムでは、「対面+遠隔のハイブリッド授業」「同期型・非同期型の遠隔授業」「オフキャンパス」の3種類の教育の場で全学的な教育活動を展開されている先生方から話題提供いただき、ポストコロナの大学教育について考えてみたい。

シンポジスト

ー ハイフレックス授業の可能性ー教室内から教室外へ



相川 真佐夫氏 京都外国語大学・京都外国語短期大学 教務部長

経歴

1967年和歌山県生まれ。1991年和歌山大学教育学部卒業。1993年University of Northern Iowa修士課程修了。2008年神戸大学総合人間科学研究科博士課程修了。博士(学術)。専門は異言語教育政策、英語教育。2004年より京都外国語短期大学専任講師として着任。現在、京都外国語大学外国語学部英米語学科教授。2019年より京都外国語大学・大学院・京都外国語短期大学の教務部長を務める。

主な活動、著書

『世界の外国語教育政策・日本の外国語教育の再構築にむけて』(共編著・東信堂)、『国際的にみた外国語教員の養成』(東信堂)、『英語到達度指標CEFR-Jガイドブック: Can-Doリスト作成・活用』(大修館書店)、『世界の言語政策 第3集 - 多言語社会を生きる』(くろしお出版)など共同執筆。2003~2005年「外国語のカリキュラムの改善に関する研究ー諸外国の動向ー教科等の構成と開発に関する調査研究」2005~2007年「諸外国の教育課程に関する研究」国立教育政策研究所より研究委託(共同)。大学英語教育学会、日本「アジア英語」学会理事。

ー 遠隔授業で教育・学習の場はいかに変化したか



西野 毅朗氏 京都橘大学 教育開発・学習支援室/経営学部 専任講師

経歴

1985年兵庫県生まれ。2010年同志社大学政策学部卒業。2016年同志社大学大学院社会学研究科教育文化学専攻博士後期課程修了。博士(教育文化学)。同年に京都橘大学教育開発支援センター、現代ビジネス学部経営学科専任講師として着任。2021年より現職。

主な活動、著書

大学教育を中心とした高等教育を研究分野とし、初年次教育やゼミナール教育の研究、教育開発の専門家としての実践および研究活動を行っている。2020年より日本高等教育開発協会理事。共著書に『アクティブラーニング』、『FDのQ&A』、『研究指導』(いずれも玉川大学出版部)、『アクティブラーニングの技法』(医学書院)、『看護学生のためのよくわかる大学での学び方』(金芳堂)、『コロナ禍で学生はどう学んでいたのか』(ジヤース教育新社)がある。

ー 地域とともに創る「学びの場」ー新潟大学ダブルホーム制度について



大橋 慎太郎氏 新潟大学 農学部 准教授

経歴

1976年新潟県生まれ。2000年新潟大学農学部卒業。2006年新潟大学大学院自然科学研究科環境管理科学専攻博士後期課程修了。博士(農学)。同年、新潟大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー研究機関研究員を経て、2008年新潟大学自然科学系助教として着任。2018年より新潟大学農学部准教授。

主な活動、著書

農業環境工学を中心とし、農業施設、農業機械、農業情報など関連分野を専門分野としている。「儲かる農業」を目指し、農業生産における地域資源の利活用による地域活性化に関する研究活動を行う。『よくわかる農業施設用語解説集』(筑波書房)、『スマート農業 農業・農村のイノベーションとサステナビリティ』(農林統計出版)、『新スマート農業 進化する農業情報利用』(農林統計出版)を共同執筆。正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組む新潟大学独自のプログラム「ダブルホーム」の担当教員(新潟大学 教育・学生支援機構 教育プログラム支援センター ダブルホーム部門 副部門長)

コーディネーター



畑田 彩氏 京都外国語大学・京都外国語短期大学 准教授

経歴

1975年長野県生まれ。1998年京都大学理学部卒業。2000年京都大学理学研究科修士課程修了。2003年京都大学理学研究科博士後期課程修了。専門は生態学・環境教育。生態学をバックグラウンドとして、博物館や文系大学での環境教育の方法論についての研究、実践を行ってきた。2002年日本学術振興会特別研究員、2003年越後松之山「森の学校」キョロロ研究員、2006年総合地球環境学研究所上級研究員、2008年京都外国語大学外国語学部専任講師を経て、2013年度より現職。博士(理学)。

主な活動、著書

共編著に『生物多様性の未来に向けて』(総合地球環境学研究所)『生物多様性の未来に向けて第2版』(東北大学GCOE)など。2018年度より日本生態学会生態学教育専門委員会委員長。2021年度より日本環境教育学会関西支部運営委員。

交流会 2/19(土) 12:00~12:30



Zoomミーティング



定員 300名

シンポジウムで取り上げることができなかった質問に登壇者に答えていただいたあと、ブレイクアウトルームで登壇者や参加者のみなさんと直接話す場を設けます。さらなる情報交換をされたい方は、ぜひご参加ください。



2/20 (日)
9:30~11:30

第1分科会

定員 60名
(加盟校優先定員: 36名)



講義形式

Zoom
ミーティング

録画あり

初年次教育が大学教育に果たす役割を考える

本分科会では、初年次教育を題材とした実践内容、新入生および教員が実感する教育効果、直面する課題を示し、初年次教育の今後を、参加者と共に探ることを目的とする。

初年次教育の内容は、大学の教育理念、学部教育方針によって、様々である。本分科会では、第1に学科単位および学科横断型の授業を実施している事例、第2に2年次生以上の学生が授業運営・改善に参画している事例、第3に専門教育への接続とキャリア教育を組み入れた事例、以上3事例を報告する。

初年次教育を通して、大学は、多様化する学生それぞれの満足度を上げつつ、教育効果をより高めるために、いかなる創意工夫を行ってきたのか。

本分科会での情報共有によって、今後の初年次教育のあり方を深く考える場を提供したい。

コーディネーター ▶ 山下 麻衣氏 同志社大学 商学部 准教授
報告者 ▶ 田中 恵美子氏 東京家政大学 人文学部 教授
高島 淳子氏 京都産業大学 法学部 教授
長廣 利崇氏 和歌山大学 経済学部 教授

2/20 (日)
14:00~16:00

第2分科会

定員 100名
(加盟校優先定員: 60名)



講義形式

Zoom
ミーティング

録画あり

オンライン授業における学びの成果をいかに評価するか

新型コロナウイルス感染症の拡大にともないオンライン授業が急速に広まったことで、大学の授業形態は大きく変化し、学生の学習スタイルも変容した。個々の受講者の学びの様子や受講者全体の理解度をその場その時に把握することが困難なオンラインという授業形態において、定められた学習目標をどのように達成させるか、そのために学習成果をどのタイミングでどのように評価し可視化していくか。こうしたことが大学教育の現場において重要な課題となっている。本分科会では、工夫を凝らしたオンライン授業を実践されている登壇者に自らの授業実践をご報告いただき、それを「呼び水」とすることで上記の課題について参加者全員で考えてみたい。

コーディネーター ▶ 石川 裕之氏 京都ノートルダム女子大学 国際言語文化学部 准教授
報告者 ▶ 多田 泰紘氏 京都橘大学 経営学部 専任講師
後藤 伸彦氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 講師
木村 裕氏 滋賀県立大学 人間文化学部 准教授

2/20 (日)
14:00~16:00

第3分科会

定員 100名
(加盟校優先定員: 60名)



講義形式

Zoom
ミーティング

録画あり

美術・隔たり・場

美術表現とは、多分に何らかの物質性にその多くを負っているものである。また、たとえ表現そのものが概念的/情報的なものであったとしても、作品作りのプロセスとは概念の流路そのものを考えたり、組み替えたり、ずらしたりすることに意味を持たせるものである。そのような美術という分野において、遠隔授業という非物質的かつ縛られた情報流路の中での教育実践を迫られる状況から、個々の現場はどんな困難を感じ、あるいは新たな可能性を見出したのか。美術教育がどう変質したのか、これからどう変質していくのか。コロナという未曾有の事態を経た上で、美術教育がその中から見出した知見を共有する場としたい。

コーディネーター・
報告者 ▶ 宮永 亮氏 京都精華大学 芸術学部 講師
報告者 ▶ 山城 大督氏 京都芸術大学 芸術学部 専任講師
村山 悟郎氏 東京藝術大学 美術学部 非常勤講師

交流会 16:00~16:30

本分科会は美術領域の教員に登壇者を絞って開催することもあり、報告を聞くだけでは中々難解な部分もあるかもしれません。参加者の方々にはざっくばらんにご質問を頂き、領域横断的な交流の場としたいと思います。

2/20 (日)
14:00~16:30

第4分科会

 定員 270名
(加盟校優先定員:160名)

 講義形式
  Zoom
ミーティング
  録画あり

これからの大学広報——《教・職・学・卒》が創発し合う場を育む

大学の現場では「広報」と「宣伝」が混然となっている。と同時に、組織的には「一般広報」と「入試広報」とが縦割りで、相互の連携が取れていない。何をめざす広報なのか、誰が誰に対して広報するのか曖昧なまま、多額の「広告費」を無駄に流出させてしまっている学校が少なくないのではないか。

ポストコロナ/ハイブリッド教育の時代は、大学が「本質的に」社会に開いていく時代だ。教職員による教育活動、学生の学修活動、そして卒業生の社会活動が相互に創発することを通じて、各大学の価値が創出されていく。

そのような時代の大学広報のあり方を語り合いたい。

コーディネーター ▶ 築地 達郎氏 龍谷大学 社会学部 准教授
 報告者 ▶ 谷ノ内 識氏 追手門学院大学 理事長室広報課 課長
 西村 圭氏 学校法人学習院 総合企画部広報課 /
 大学学長室広報センター 課長
 小野 英理氏 京都大学 情報環境機構 IT企画室 助教 /
 Web戦略室 マネージャー

交流会 16:30~17:00

パネルディスカッション終了後、名刺交換会的な交流会を行います。実務面でのお悩みを共有し、広報活動の改善に役立てたいと思います。ブレイクアウトルーム機能を用います。カメラオン可能な服装でご参加ください。

2/26 (土)
9:30~11:30

第5分科会

 定員 100名
(加盟校優先定員:60名)

 講義形式
  Zoom
ミーティング
  録画あり

withコロナ時代の「留学」どうする？

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な広がりから1年半以上が経過し、ワクチン接種が進む国々では感染を予防しながら日常生活を送る「withコロナ」時代を迎えており、社会経済活動の再開や活性化が期待されている。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大は学校や学習の場にも大きな影響を与え、様々な課題を浮き彫りにした。その一つが「留学」である。未だに各国では入国制限や入国後の行動制限措置がとられており、海外からの留学生が日本に入国できない、日本の大学生も海外への留学が決まったのに日本を出国できないなど、留学が難しい状況が続いている。最近では「リアル留学」に代わって「オンライン留学」というニューノーマルな留学プランもスタートしている。分科会では、教職員、学生とともに「withコロナ」「ニューノーマル」時代における「留学」の可能性と課題について考えてみたい。

コーディネーター ▶ 孔 栄鍾氏 佛教大学 社会福祉学部 社会福祉学科 講師
 報告者 ▶ 吳 恩恵氏 茨城キリスト教大学 生活科学部 心理福祉学科 助教
 中村 真美氏 佛教大学 教育推進部 国際交流課 課長
 PHUNG THI DIEM KIEU氏 佛教大学大学院 社会学研究科 修士課程 1年
 久保 有佳里氏 佛教大学 文学部 中国学科 3年
 權 兌研氏 佛教大学 社会福祉学部 社会福祉学科 1年

2/26 (土)
9:30~12:00

第6分科会

 定員 270名
(加盟校優先定員:160名)

 講義形式
  Zoom
ミーティング
  録画あり

健康・スポーツ・医療の現場で活躍できる人材教育の「場」の再考

健康・スポーツ・医療に関わる大学は、様々な指導者資格（健康運動指導士等）や国家資格（看護師等）を取得した、現場で活躍できる有能な人材の育成を担っている。一人ひとりの「人（一般人、アスリート、患者等）」と関わるこれらの領域では、実際に現場に出て多くの事例を体験することが非常に重要である。しかし、コロナ禍で現場実習が様々な制限を受け、従来通りの実習を行うことが困難になる中で、課外活動、学内実習、オンライン実習を活用した実習など様々な新たな工夫が行われてきた。様々な取り組み事例やその利点などを紹介していただき、これからの人材教育の『場』について考えたい。

コーディネーター ▶ 谷口 有子氏 京都先端科学大学 健康医療学部 健康スポーツ学科 教授
 報告者 ▶ 井上 哲朗氏 国際武道大学 体育学部 体育学科 教授
 石井 泰光氏 京都先端科学大学 健康医療学部 健康スポーツ学科 准教授
 那須ダグバ 潤子氏 京都先端科学大学 健康医療学部 看護学科 講師

2/26 (土)
14:00~16:00

第7分科会

定員 40名
(加盟校優先定員: 24名)



講義形式



Zoom
ミーティング



録画あり

コロナ禍における保育士養成－学外実習の学びの意義の再考－

コロナ禍における保育士養成の学外実習がどのように行われており、また、今後どのように取り組んでいくべきか、その学びの意義を再考する。新型コロナウイルス感染拡大によって保育士養成における学外実習を通常通りに実施することが困難となるケースがあるため、①保育士養成における学外実習の位置づけと②学外実習の取り組みの実際について話題提供することで、保育士養成における学外実習の学びの意義を再考するための意見交換を行い、理解を深めたい。

コーディネーター ▶ 安田 誠人氏 大谷大学 教育学部 教授
報告者 ▶ 新川 泰弘氏 関西福祉科学大学 教育学部 教授
榎本 祐子氏 びわこ学院大学 教育福祉学部 専任講師
大村 海太氏 桜美林大学 健康福祉学群 助教
本田 和隆氏 大阪千代田短期大学 幼児教育科 准教授

2/26 (土)
14:00~16:30

第8分科会

定員 270名
(加盟校優先定員: 160名)



講義形式



Zoom
ミーティング



録画あり

初年次教育の「場」とは何か?: 3大学のコロナ以前・以後の事例を通して

初年次教育は、高校と大学の接続をする重要な科目として位置づけられている。ただし大学等によってその目的や方法は様々で、それぞれが特色ある授業を展開している。このたび、新型コロナ感染症禍により、初年次教育の授業の多くがオンライン化された。本分科会では初年次教育のオンライン化の様々な事例を通して、そのメリット、限界等を客観的に捉えつつ、これからの初年次教育の「場」のあり方について考えたい。3名の教員に、それぞれの大学の初年次教育の目的、方法、特色や新型コロナ感染症禍での経験等を報告いただく。その後、パネルディスカッションを行い、参加者の皆さんとの質疑応答を通して、このテーマを深めていく。

コーディネーター ▶ 白鳥 秀卓氏 京都産業大学 生命科学部 教授/教育支援研究開発センター 副センター長
報告者 ▶ 鬼塚 哲郎氏 京都産業大学 文化学部 教授
武上 茂彦氏 京都薬科大学 分析薬科学系 教授
菊地 滋夫氏 明星大学 人文学部 教授

2/26 (土)
14:00~17:00

第9分科会

定員 270名
(加盟校優先定員: 160名)



講義形式



Zoom
ミーティング



録画あり

通信制大学と通学制大学の境界

コロナ禍により通学制の大学においても、いわば強制的にオンライン授業を経験することとなったが、そのことにより、オンライン授業が今後の大学教育の一つの方法として、実感をもって認識されるようになった。令和3年7月、日本私立大学連盟は、『ポストコロナ時代の大学のあり方～デジタルを活用した新しい学びの実現～』の中で「卒業要件にかかわるオンライン授業による修得単位数の上限は撤廃すべきである。」との提言を行っており、今後、通学制と通信制の境界はあいまいになっていく可能性がある。本分科会では、通信制大学の研究者ならびに、通信制大学の創設にかかわった当事者から、通信制大学の成り立ちと特徴、課題や意義について話題提供をいただき、そこから「授業の方法」による区分が今後も意味をなすのか、また、改めて通学制の大学であるということにはどのような積極的な意味があるのかを参加者を交えて議論する。

コーディネーター ▶ 田口 真奈氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授
報告者 ▶ 鈴木 克夫氏 桜美林大学大学院 国際学術研究科 教授
和田 公人氏 学校法人八洲学園 理事長
寺尾 謙氏 神奈川工科大学 学生支援本部 教務課 課長代理/
一般社団法人大学行政管理学会 教育マネジメント研究会 サブリーダー

交流会 17:00~17:30

分科会での議論を踏まえた気軽な意見交換の機会をもちたいと思います。4~5人のグループで15分程度、分科会のご感想やご意見を交換していただき、その後、全体共有いただければと考えています。

2/27 (日)
9:30~11:30

第10分科会

 定員 200名
(加盟校優先定員:120名)


講義形式

Zoom
ミーティング

録画あり

学生支援の「場」を問い直す ～コロナ禍での現状と課題～

コロナ禍において、我々の生活様式は大きく変化した。大学においては、これまで「対面」が当たり前であった授業が「オンライン」で行われるようになり、授業におけるICT活用が積極的に推進されている。このような「場」の変容は、学生支援の現場でも起こっている。対面での相談が困難な状況の中で、学生支援はどのように行われているのだろうか。また、コロナを経て、今後学生支援の「場」や実践活動はどのように変容していくのだろうか。

本分科会では、コロナ禍で学生支援に携わってきた先生方に、対面およびオンラインでの学生支援の実践例をご紹介いただき、今後の学生支援における「場（キャンパス）」の意義について議論していただく。

コーディネーター ▶ 浦野 由平氏 京都文教大学 臨床心理学部 特任講師
 報告者 ▶ 高石 恭子氏 甲南大学 文学部 教授/学生相談室 専任カウンセラー
 林 潤一郎氏 成蹊大学 学生サポートセンター-学生相談室 専任カウンセラー（経営学部 教授）
 藤原 めぐみ氏 京都文教大学 障がい学生支援室 職員

2/27 (日)
9:30~11:30

第11分科会

 定員 80名
(加盟校優先定員:48名)


講義形式

Zoom
ミーティング

録画あり

大学教育におけるつながりのリ・デザイン

今後の少子高齢化社会及びグローバル化の進展の中、高等教育機関にもまたその存在意義の問い直しが求められている。また、大学等連携推進法人制度の導入準備も進み、個々の大学の個別の実践だけでなく、大学間連携による質の向上も課題の一つとしてあげられる。本分科会では、地域特性を反映した学びの場づくりの実践として各地で展開されてきた単位互換制度に関する大学コンソーシアム京都による全国調査の結果をもとに、大学教育に関するネットワーキングの未来を展望する。

コーディネーター ▶ 山口 洋典氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授
 報告者 ▶ 中元 崇氏 京都大学 情報部 掛長
 山咲 博昭氏 広島市立大学 企画室 特任助教
 コメンテーター ▶ 中水 かおる氏 一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸 統括コーディネーター

2/27 (日)
9:30~12:00

第12分科会

 定員 270名
(加盟校優先定員:160名)


講義形式

Zoom
ミーティング

録画あり

ハイブリッド授業が一般化する時代の情報システムと教室デザイン

「ハイブリッド授業」が常態化する時代を迎え、「教室」という場の役割が根源的に問い直されようとしている。本分科会では、これからの教室のあり方について「デザイン」の観点からスポットライトを当てる。オンライン授業に用いられる様々な情報システムのデザイン、リアルな教室設備のデザイン、それらを構築する組織のデザイン、そしてカリキュラムのデザイナー。これらを統合的に議論したい。

コーディネーター ▶ 築地 達郎氏 龍谷大学 社会学部 准教授
 報告者 ▶ 山内 祐平氏 東京大学 大学院情報学環 学環長/教授
 榮坂 俊雄氏 北見工業大学 副学長/情報通信系 教授
 大友 裕己氏 シュア・ジャパン株式会社 インテグレート・システムズ事業本部長/シニアディレクター



科目・教養・教員の未来 ～コロナ禍を経たこれからの大学教育を展望する

「ないものを創る」と「あるものを活かす」ことは、決して相反する価値ではない。そうした中、大学教育にかかわって、「あるものを活かしつつ、ないものを創る」多彩な実践が展開されている。例えば、単位互換から連携開設へ、一般教養からリベラルアーツへ、FDからプレFDへ、こうした動きは大学の、地域連携の、そして教員の存在と役割を改めて問い直すものとして位置づけられる。本シンポジウムでは、3名の報告と参加者との対話により、大学教育の未来を構想・共創する。

シンポジスト



清水 一彦氏 山梨大学 理事・副学長（企画・評価・内部統制）

経歴

1952年山梨県生まれ。専門は教育制度学、高等教育研究で博士（教育学）。東京教育大学、筑波大学を卒業・修了後、清泉女学院短期大学講師・助教授、筑波大学教育学系講師・助教授・教授を歴任。筑波大学で副学長・理事を6年間務めた後、2015年より山梨県立大学の理事・学長に。2021年より山梨大学理事・副学長となり現在に至る。筑波大学名誉教授・山梨県立大学名誉教授。

主な活動、著書

『日米の大学単位制度の比較的研究』（風間書房）や『平成の大学改革を斬る』（協同出版）など著書多数。文部科学省中央教育審議会大学分科会臨時委員、全国大学実務教育協会代表理事・副会長や日本教育制度学会会長など、活躍の幅も広い。

また、山梨県立大学学長在職中の2019年5月23日、山梨県・山梨大学と連携協定を締結し「一般社団法人大学アライアンスやまなし」の設立（2019年12月18日）を牽引。その後、大学アライアンスやまなしは2021年3月29日に全国初の大学等連携推進法人に認定され、連携開設科目制度の活用により、多様かつ幅広い教養科目や関連領域の専門科目の充実が図られている。



藤田 潔氏 一般財団法人三菱みらい育成財団 常務理事

経歴

1960年生まれ、岩手県出身。東京大学経済学部卒。1983年三菱商事(株)に入社し人事第一部（4年）に。

首都圏事業部、都市開発事業部で都市開発に従事（5年）した後、食料開発室（1年3か月）、業務総括部（9か月）を歴任し、1995年人事部に復帰。1998年より英国に駐在（3年半）の後、2002年1月人事子会社ヒューマンリンク(株)に出向、10月より同社社長（6年半）。

2009年より人事部長（5年）、2014年総務部長（2年）、2016年東北支社長（3年）を経て、2019年4月新財団設立準備室長に。10月より現職。

主な活動、著書

三菱商事(株)入社後は開発プロジェクトや人事関連の経験が長い。直近の約3年は三菱みらい育成財団常務理事として若者の教育関連に従事。



瀬崎 颯斗氏 同志社大学 社会学部 教育文化学科 4年

経歴

1998年北海道旭川市生まれ。研究分野は高等教育、大学教育開発。特に、高等教育における大学教員養成、プレFDに関心を持つ。

2017年北海道旭川東高等学校卒業。2022年3月同志社大学社会学部教育文化学科を卒業予定。同年4月より東京大学大学院新領域創成科学研究科（修士課程）に進学予定。

その他、NPO法人日本教育復興連盟（ROJE）関西学生事務局、学校法人角川ドワンゴ学園N高等学校・S高等学校TAインターンシップ、文部科学省スキームD 2021年度ピッチ・アクター等の教育実践活動に従事。

主な活動、著書

NPO法人ROJE関西教育フォーラム2019にて、企画代表・学生登壇者を務める。文部科学省スキームD 2021年 University Pitch and Conferenceにて、「大学院生の教育スキル向上を主目的としたオンラインコミュニティの設立」をタイトルに発表。

コーディネーター



山口 洋典氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授

経歴

1975年静岡県磐田市生まれ。専門は社会心理学、特にグループ・ダイナミクス。

ネットワーク型まちづくり、災害復興、サービス・ラーニングなどをテーマにアクションリサーチを展開する。財団法人大学コンソーシアム京都事務局研究主幹、浄土宗應典院主幹、同志社大学院総合政策科学研究科助教授・准教授を経て2011年度より立命館大学共通教育推進機構准教授、2020年度より現職。

2017年にデンマーク・オールボー大学で参加型学習を比較研究。

主な活動、著書

著書に『ソーシャル・イノベーションが拓く世界』（法律文化社、共著）『はじめてのファシリテーション』（昭和堂、共著）など。2019年度・2020年度には立命館SDGs推進本部事務局局長。2020年度より立命館大学教養教育センター副センター長

情報交換会

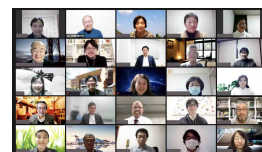
2/27(日) 16:30～18:00

定員 300名
(入室は先着順となります)

Zoomミーティング

第27回FDフォーラムは、情報交換会についてもZoomミーティングを使用し、開催いたします。

オンラインでのコミュニケーションについて経験交流の機会とするとともに、同じ課題を抱えた参加者間で情報交換ができる場となるようFDフォーラム企画検討委員会一同で工夫を重ねました。シンポジウム・分科会にお申込みいただいた方は、どなたでもご参加いただけます。事前のお申込みは不要です。是非お気軽にご参加ください。



情報交換会進行

山口 洋典氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授



情報交換会と聞くと、円卓にお食事と飲み物が並んだ風景を想像する方も多いでしょう。今年もまたオンライン開催となったFDフォーラムの情報交換会では、ご参加いただいた方のそれぞれに最適な環境を整えてご参加ください。昨年は参加者の皆さんからテーマを募り、授業動画の工夫、オンライン授業での成績評価方法、シンポジウムの感想交流、リテラシー、専門部署・スタッフがいない大学でのFD、入学前教育、ポストCOVID-19の教育哲学、ハイフレックス授業のツボ、これら8点についてブレイクアウトルームで語り合い、全体で共有しました。最終の夕方、振り返りと交流の有意義な機会となることを願っています。

注意事項

- 情報交換会のZoomミーティングへのご参加方法は、FDフォーラムのシンポジウム・分科会にお申込みいただいた方にのみご案内します。なお、情報交換会のみのご参加は受け付けておりません。予めご了承ください。
- 入室人数は300名までです。入室は先着順となりますので、混み合って入室できない場合は、時間をずらして再度アクセスください。
- 多くの方にご参加いただけるよう、ご参加はおひとり1デバイスとしてください。

ポスターセッション

ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が実施する、特色ある教育に関する取り組みを発表します。

WEBサイトへのポスター掲載

公開期間 2/12(土) 10:00～2/28(月) 23:59

第27回FDフォーラムポスターセッション特設WEBサイトに、ポスター及び説明動画を掲載します。公開期間中はいつでも視聴・閲覧できます。特設WEBサイトは、FDフォーラムのシンポジウム・分科会への申込者にのみご案内いたします。



オンライン発表

公開期間 2/19(土) 14:00～17:00 ※

2/19(土)に、Zoomミーティングを使用し、オンラインでポスター発表を行います。また、ブレイクアウトルーム機能を使用し、ポスターごとに分かれ、発表者への質問や参加者間交流ができる時間も設けます。

- オンライン発表のスケジュール・Zoomミーティングへの参加方法は、特設WEBサイトにてご案内いたします。
- 入室人数は300名までです。入室は先着順となりますので、混み合って入室できない場合は時間をずらして再度アクセスください。

※ 発表件数に応じて、発表時間は変更となる可能性があります。

[お申込みについて]

申込期間

大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の方を対象に、先行申込期間を設けています。
先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。

加盟大学・短期大学の方

2022/1/5(水) 10:00 ~ 2/5(土) 17:00

上記以外の方

2022/1/18(火) 10:00 ~ 2/5(土) 17:00

参加されるにあたり、配慮すべき障がいがあれば、1/29(土)17:00までにFDフォーラム事務局までご連絡ください。

申込方法

事前Web申込

お申込はこちらから▶



 <https://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

- 本フォーラムは事前申込制となっております。申込期間外およびフォーラム当日の参加申込受付は行っておりません。
- シンポジウム・分科会は事前申込制です。お申込み後の参加プログラムの変更はできません。
- 複数のシンポジウム・分科会にお申込みいただけますが、開催時間が重なっているプログラムにはお申込みいただけません。

参加費について

所属	区分	参加費
加盟 大学・短期大学	教職員	1,000円
	学生(大学院生含)	無料
非加盟 大学・短期大学 その他団体・企業等	教職員・一般	4,000円
	学生(大学院生含)	無料

- 開催中止の場合を除いては、理由の如何にかかわらず、参加費の払い戻しはいたしかねます。
- 申込手続き完了後は、申込内容の変更はできませんので、ご注意ください。
- 支払期限は、2022年2月7日(月)です。期日までに支払手続きが完了しない場合は、参加の意思が無いものと判断し、申込を無効とします。
- 所属・区分等の入力不備により、参加費を多く支払われても、返金できませんので、十分にご注意ください。
なお、参加費が不足している場合は、追って不足分を請求させていただきます。

参加費のお支払方法について

お支払方法は、以下①~③の方法をご選択いただけます。

①クレジットカード決済 ②コンビニ決済 ③口座振込

- ①・②はメールリンク型システム「Paysys」を利用した決済となります。
- ①・②に関するご案内は、ペイシス <info@paysys.jp> のメールアドレスから送信いたします。
- ③口座振込によるお支払いの場合、振込手数料をご負担いただきます。あらかじめご了承ください。
- クレジットカード情報は、大学コンソーシアム京都では保持いたしません。
決済システム運営会社である株式会社メタップスペイメントを通じて、カード会社に送信されます。



請求書・領収書について

- 請求書は、PDFデータを「申込完了メール」に添付してお送りいたします。クレジットカード決済およびコンビニ決済をご選択された方へは、別途、3日以内(日曜日・月曜日を除く)に、支払い方法に関するご案内を、ペイシス <info@paysys.jp> からメールにてお送りいたします。
- 領収書は、参加費のお支払いが確認でき次第、メールにてPDFデータをお送りいたします。
- なお、請求書・領収書に関するご案内は、請求書送付先に記載のメールアドレスにお送りいたします。

参加証について

- 参加証は、マイページよりダウンロードすることができます。
- マイページへのログイン情報は、申込完了後、参加者欄記載のメールアドレスにお送りいたします。

ダウンロード可能期間

2022/2/19(土) 9:30 ~ 3/4(金) 23:59

[スケジュール]

2/12 (土)	10:00～	ポスターセッション 特設WEBサイト公開 (2月28日 (月) 23:59まで)	P.9
2/19 (土)	9:30～ 12:00	シンポジウム1 大学教育の「場」を問い直す ～ポストコロナに向けて	交流会 P.3
	14:00～ 17:00	ポスターセッション オンライン発表	P.9
2/20 (日)	9:30～ 11:30	第1分科会 初年次教育が大学教育に果たす役割を考える	P.4
	14:00～ 16:00	第2分科会 オンライン授業における学びの成果をいかに評価するか	P.4
	14:00～ 16:00	第3分科会 美術・隔たり・場	交流会 P.4
	14:00～ 16:30	第4分科会 これからの大学広報 ―《教・職・学・卒》が創発し合う場を育む	交流会 P.5
2/26 (土)	9:30～ 11:30	第5分科会 withコロナ時代の「留学」どうする?	P.5
	9:30～ 12:00	第6分科会 健康・スポーツ・医療の現場で活躍できる人材教育の「場」の再考	P.5
	14:00～ 16:00	第7分科会 コロナ禍における保育士養成 ―学外実習の学びの意義の再考―	P.6
	14:00～ 16:30	第8分科会 初年次教育の「場」とは何か? : 3大学のコロナ以前・以後の事例を通して	P.6
	14:00～ 17:00	第9分科会 通信制大学と通学制大学の境界	交流会 P.6
2/27 (日)	9:30～ 11:30	第10分科会 学生支援の「場」を問い直す ～コロナ禍での現状と課題～	P.7
	9:30～ 11:30	第11分科会 大学教育におけるつながりのリ・デザイン	P.7
	9:30～ 12:00	第12分科会 ハイブリッド授業が一般化する時代の情報システムと教室デザイン	P.7
	13:30～ 16:00	シンポジウム2 科目・教養・教員の未来 ～コロナ禍を経たこれからの大学教育を展望する	P.8
	16:30～ 18:00	情報交換会	P.9

お問合せ先



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

教育開発事業部 FDフォーラム事務局

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

☎ 075-353-9163 ☎ 075-353-9101

✉ fdf@consortium.or.jp

窓口受付時間: 火曜～土曜 9:00～17:00 (年末年始を除く)